

総 論

1. 松戸市の概要

松戸市の位置

千葉県北西部（東葛飾地域）に位置し、西は江戸川を境に東京都（葛飾区）と埼玉県（三郷市）に接し、南は市川市、東は鎌ヶ谷市・沼南町、北は流山市・柏市と接している。

また、都心より20km圏に位置し、市域は東西11.0km、南北11.5km、周囲58.0km、面積61.33km²である。

地 勢

市域は東西11.0km、南北11.5kmとなっており、ほぼひし形をしている。また、JR常磐線が市域西側をほぼ南北にはしり、これを境に江戸川に至る低地と下総台地の一部に属する起伏の多い台地とに分割されている。

昭和30年代までは、低地部分は水田に台地部分は畑作地域とした農耕が行われていたが、現在では市域のほぼ全域が市街化されつつあり、一部の地域でネギ、カブ、梨等の生産が行なわれているが、さらに宅地化が進行しつつある。

松戸市の位置

（市役所：松戸市根本387番地の5 東経 139° 54' 23" 北緯35° 47' 03" ）

沿 革

本市の黎明は比較的早く、遠く原始時代にさかのぼり、市内各所の丘陵には多数の貝塚が分布し、縦穴住居址も多数発見されている。また各時代においても交通の要衝として、さらに台地は城塞化し、しばしば戦渦にも見舞われている。

明治6年印旛県の廃止に伴い千葉県の管轄となり、東葛飾郡役所も旧松戸町に設置され（大正12年廃止）、これを契機に諸官署が次々と設置され、東葛飾地域の政治的中心地としての機能を発揮するようになった。

さらに昭和8年に明村を、同13年に八柱村を合併し、同18年に馬橋村・高木村を合併し同年4月1日市制を施行した。

その後昭和29年に小金町、同31年に沼南村の一部を編入し現在の市域が確立された。

昭和30年代になると新京成電鉄（松戸 - 津田沼）が開通し、市内陸部の交通近代化の実現、同時に日本住宅公団による常盤平団地の造成・入居開始を契機に爆発的な人口増加の兆しが現れ、都心への通勤時間が30～40分程度という地理的条件も相まって、以降毎年1万3千人以上の増加を記録した。しかし、昭和59年頃より社会増から自然増へ傾向が変化しつつある。昭和30年代後半からの人口増加が示すように、東京都内からの流入人口を受入れざるを得ない情勢が続き、首都圏の典型的な住宅都市として発展してきた。このような背景の下に、公共施設の整備・増設が急務とされ「快適ですみ良い暮らしのために」を施策の体系に掲げ、中でも市民生活に直接係わりのあるごみ処理施設の整備を中心とした生活環境整備と清掃事業が推進されてきた。

人口の推移

本市が市制を施行した昭和18年の人口は約4万人であったが、昭和35年以降爆発的な増加を記録し、昭和54年までは毎年1万人以上の増加がみられ、中でも昭和44・46年の両年は2万人台の増加となった。しかし昭和55年以降は人口増が鈍化し、年間1万人を割っている。近年は年間2千人程度の増加となり、社会増より自然増の比率が高くなり市域の大規模開発も無く人口流入も抑制されつつある。

人口及び世帯数の推移（各年10月1日現在）

年度	世帯数	人 口			備 考
		総数	男	女	
1 8	7,198	40,433	20,855	19,548	市制施行
2 2	10,169	54,513	27,144	27,399	臨時国勢調査
2 5	10,562	52,531	25,813	26,718	第 7 回国勢調査
3 0	13,875	68,363	34,024	34,339	第 8 回国勢調査
3 5	19,656	86,372	43,420	42,952	第 9 回国勢調査
4 0	41,913	160,001	82,001	78,000	第 10 回国勢調査
4 5	70,829	253,591	130,021	123,570	第 11 回国勢調査
5 0	102,830	344,558	175,911	168,647	第 12 回国勢調査
5 5	128,974	400,863	202,799	198,064	第 13 回国勢調査
6 0	139,855	427,473	215,909	211,564	第 14 回国勢調査
6 2	147,008	440,155	222,627	217,528	
6 3	152,555	448,533	227,468	221,065	
元	156,269	453,180	230,216	222,964	
2	160,724	456,210	232,043	224,167	第 15 回国勢調査
3	164,733	458,893	233,536	225,357	
4	168,581	461,438	234,845	226,593	
5	171,324	463,517	235,938	227,579	
6	173,118	463,973	236,075	227,898	
7	172,119	461,503	234,154	227,349	第 16 回国勢調査
8	173,321	460,873	233,989	226,884	
9	175,331	461,126	234,083	227,043	
1 0	177,719	462,297	234,113	228,184	
1 1	180,765	464,609	235,079	229,530	
1 2	182,703	464,841	234,552	230,289	第 17 回国勢調査
1 3	185,717	467,197	235,495	231,702	
1 4	189,159	470,759	236,962	233,797	
1 5	191,865	472,728	237,433	235,295	

昭和25年世帯数は推測値

2. 松戸市史及び清掃事業の変遷

年 代	市 の 歴 史	ご み 処 理	し 尿 処 理
明治 2年	五香六実入植開始		
5年	松戸・小金郵便取扱所開設		
11年	東葛飾郡役所・松戸警察所設置		
22年	松戸町誕生		
29年	日本鉄道海岸線（常磐線） 田端－土浦開通 松戸駅開設		
31年	常磐線全線開通 馬橋駅開設		
42年	県立園芸専門学校設立 （千葉大学園芸学部）		
44年	北小金駅開設		
大正 5年	流山鉄道開通		
9年	国道6号線道路認定		
12年	東武鉄道 船橋－野田開通 六実駅開設		
昭和 2年	葛飾橋（鉄橋）架設		
8年	明村と合併（15,669人）		
11年	常磐線上野松戸間電化		
13年	八柱村と合併（21,506人）		
18年	高木・馬橋村と合併 市制施行（40,433人）		
25年	松戸市報（広報）発刊 市立病院開院	松戸市汚物掃除規定を制定	
27年	松戸駅東口を開設 北松戸駅仮駅開設		
29年	東葛市から旧小金町の一部 を編入（66,051人）	清 掃 法 制 定 施 行	
30年	新京成電鉄開通 松戸－津田沼 松戸市都市計画決定	松戸市清掃条例及び同施行規則制定施行 松戸市汚物掃除規定廃止 特別清掃地域指定 （26地区） ごみ収集有料化 （石油箱1杯 5円）	し尿収集開始 （し尿汲取手数料 1樽 15円）

年 代	市 の 歴 史	ご み 処 理	し 尿 処 理
昭和 3 1 年	沼南村の一部を編入 (70,503人)	回数券をたばこ屋等で販売 した	
3 2 年	電話自動化使用開始 日本住宅公団常盤平団地 造成開始		し尿汲取三輪車を購入 一部直営による収集開始 (し尿汲取三輪車1台購入)
3 3 年	北松戸駅常設駅に格上		
3 4 年	市庁舎現在位置へ移転		
3 5 年	稔台・北松戸に工業団地造成		金ヶ作下水処理場操業 (常盤平衛生処理場操業開始)
3 6 年	日本住宅公団常盤平団地完成 串崎新田に市営火葬場完成 国道6号線松戸バイパス完成	ごみ収集手数料の廃止 清掃工場(六和)建設用地 買収	農協に収集一部委託
3 7 年	市営小金水道給水開始 松飛台工業団地造成	清掃工場(六和)完成 (固定炉)	
3 8 年	松戸市5ヶ年計画作成 市制施行20周年	塵芥収集容器設置補助金 交付規則制定	一般収集は委託
3 9 年	市民会館完成		農協に代え丸協清掃事業 共同組合に委託
4 1 年	市の人口17万人を超える	市内全域が特別清掃地域に 指定される 委託収集開始 清掃工場(六和)増設 (機械炉)	常盤平下水終末処理場に、 し尿投入施設完成
4 2 年	市立病院移転完成 (総合病院となる)		松戸市清掃条例の全面改正
4 3 年	総合卸売市場開設 市の人口20万人を超える		常盤平し尿処理場の全面 操業開始
4 4 年	すぐやる課設置	紙袋によるごみ収集開始 (粗大・不燃・台所ごみに 分別)	市有施設の委託収集 (全面委託実施)
4 5 年	市役所新館完成	清 掃 法 全 部 廃 止 廃棄物の処理及び清掃に関する法律制定 全面委託実施 ごみ収集週3回に (不燃物収集開始)	

年 代	市 の 歴 史	ご み 処 理	し 尿 処 理
昭和46年	日本住宅公団小金原団地完成 常磐線複々線化完成 (千代田線相互乗入)	清掃工場に塵芥粉碎機設置	
47年	常盤平市民センター完成 未熟児センター設置	松戸市清掃条例及び施行規則全部改正 松戸市廃棄物の処理及び清掃に関する条例及び同施行規則制定施行 清掃工場(六和)に流動焼却炉を設置	
48年	武蔵野線開通 新松戸駅開設 国民体育大会開催 (自転車・テニス)		し尿海洋投入開始
49年	第1次総合5ヶ年計画	段ボールの資源化開始	第1中継所設置
50年	日本住宅公団牧の原団地・ 梨香台団地完成 市立高校開校	不燃物収集業務を増強 (4社委託とする)	
51年	総合福社会館完成 陸上競技場完成	清掃工場(六和)に連続燃 焼式機械炉完成 五香地区婦人会リサイクル 活動開始	
52年	松戸市長期構想発表		第1中継所廃止 中継所設置(第2・第3・ 第4) 宮前公衆便所完成
53年	武蔵野線(新松戸以東開通) 新八柱駅開設	4分別収集開始 ・燃やせるごみ ・燃やせないごみ ・資源ごみ ・粗大ごみ 六和旧炉に電気集塵機設置	
54年	第2次総合5ヶ年計画	資源ごみ協同組合に委託 選別センター設置	
55年	上葛飾橋(松戸三郷有料橋) 開通 市の人口40万人を超える	第2清掃工場竣工 (クリーンセンターに改称) 公衆屑籠委託収集開始	

年 代	市 の 歴 史	ご み 処 理	し 尿 処 理
昭和 5 6 年	生きがい福祉事業団発足 (財)おはなしキャラバン 設立	資源リサイクルセンター竣工 粗大ごみ委託収集開始	東部クリーンセンター竣工 第 4 中継所廃止 常盤平衛生処理場し尿処理 施設廃止
5 7 年	千葉北導水路(坂川放水路 等松戸排水機場完成)	六和クリーンセンターに圧縮 梱包機設置	北松戸公衆便所完成
5 8 年	市制施行 4 0 周年 小児医療センター開設		
5 9 年	第 3 次総合 5 ケ年計画	5 分別収集開始 ・燃やせるごみ ・燃やせないごみ ・資源ごみ ・粗大ごみ ・有害ごみ	
6 0 年	世界平和都市宣言 松戸駅西口地下駐車場完成		
6 2 年	日本の道百選に常盤平さく ら通が指定される		馬橋公衆便所完成
6 3 年	矢切の渡しブーム	日暮クリーンセンター竣工	
平成 元年	第 4 次総合 5 ケ年計画		新松戸公衆便所完成
2 年		ごみを減らす課設置 (ごみ減量キャンペーン を展開)	
3 年	北総開発鉄道全線開通	従来のリサイクル町会制度 を廃止し、新たに集団回収 方式を導入 (補助制度を発足) 和名ヶ谷クリーンセンター の建設に着手 ・議会承認(H3.11) 紙パック拠点回収開始 (H3.10) 廃棄物の処理及び清掃に関する法律改正施行	生活排水処理基本計画策定
4 年		日暮クリーンセンター内に 燃料化システム導入 ごみ処理基本計画策定 (平成 5 年 3 月)	

年 代	市 の 歴 史	ご み 処 理	し 尿 処 理
平成 5 年	市制施行 50 周年	松戸市廃棄物の減量及び適正処理に関する条例全部改正 松戸市廃棄物の減量及び適正処理に関する条例施行規則全部改正	処理に関する条例全部改正
6 年	第 5 次総合 5 ケ年計画	新条例施行	第 2 中継所廃止
7 年		和名ヶ谷クリーンセンター 竣工（10 月 5 日） 和名ヶ谷スポーツセンター 竣工（平成 8 年 3 月 28 日） 松戸市事業系廃棄物対策総合 計画策定	
9 年		粗大ごみ有料化実施 （4 月 1 日）	
10 年	松戸市総合計画 （4 月 1 日）	六和クリーンセンター休炉 （平成 10 年 1 月） ごみ処理基本計画策定 （平成 10 年 3 月）	第 3 中継所廃止 し尿海洋投入廃止
12 年		事業系ごみ全面有料化 （10 月 1 日） 燃料化システム廃止 （平成 13 年 3 月）	
13 年		8 分別収集開始（4 月 1 日） ・燃やせるごみ ・陶磁器ガラスなどのごみ ・リサイクルする プラスチック ・その他のプラスチック などのごみ ・ペットボトル ・資源ごみ ・粗大ごみ ・有害ごみ 資源ごみのうち紙類を問屋に 直納（4 月 1 日） ペットボトル処理施設設置 （4 月 1 日）	浄化槽汚泥処分手数料 有料化（5 月 1 日）
14 年		祝日収集開始（4 月 1 日） 資源ごみ一部を民間処理委託 開始 六和クリーンセンター廃止 （平成 14 年 12 月） ごみ処理基本計画策定 （平成 15 年 3 月）	